

復興・市民活動情報誌

みみづく

第12号



特定非営利活動法人 **市民活動センター神戸**
Kobe Empowerment Center (KEC)
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋葉ビル3F
TEL: (078) 367-3336 FAX: 367-3337
E-mail: kiroku@odirect.com
URL: http://www.odirect.com/kiroku

「震災・活動記録室」まる三年、「震災
しみん情報室」一年半と活動に応じて看
板を変えてきたが、現在の「市民活動セ
ンター神戸」もすでに二年十カ月、いち
ばん長持ちする名前になるかもしれない。
改称の際、議論の末現在の「市民活動セ
ンター神戸」に落ち着いたのだが、NPO
センターという名称はやめようという
ことでは、すんなりと意見が一致した。
現在、改めてNPOセンターに
しなくて良かったと思っている。

NPO法が成立し、NPOへの
寄付金に対する税制優遇措置が
も一応決まったのだが、私はN
POという切り口で支援措置が
講じられるのはいささか違和
感を覚えている。というのはN
POというのは事業なり活動を
行うための道具あるいは入れ物
であって、問われるべきは中身
であり入れ物ではないはずだか
らである。NPOという新しい
容器・入れ物が開発されたので、
新製品の使用を促進しましようというの
は分らぬでもないが、そろそろ中身の議
論をしなければならない時期だろう。

先日、当センターの理事である木原
勝彬NPO政策研究所理事長と話をした。
木原さんは、NIRA（総合研究開発機構）
の委託研究「市民公益活動の基盤整備に
関する調査研究」の調査委員長であった
のだが、我々が十年ほど前に熱っぽく議

NPOは入れ物

論していた市民公益活動の理念はどこ
かへ行ってしまったのかというよう
なことを話し合った。当センターが協働
すべきはまさに市民公益活動団体であ
って、その活動を行う団体が法人格を
持つかどうか、またどのような法人格
を持つているかは問題ではあるまい。
当センターがコミュニティ・ビジネス
の支援をしているのも市民公益活動あ
るいは社会性のある市民事業のエン
パワーメントを目指しているのであ
り、収益性の向上のみを目指して
いるわけではない。その原点を忘
れないようにならないといけない。

市民公益活動の大きな社会的役割
は、行政や企業が提供出来ない、あ
るいは提供すべきでないサービスを
提供することにあるが、より重要な
機能はVoice、すなわち社会的に排
除されている人たちの声を代弁し、
Social Inclusion（すべての人々を孤
独や孤立、排除や摩擦から保護し、
健康で文化的な生活の実現につなげ
るよう、社会の構成員として包み支え
うこと）を実現することである。当
センターの重要なミッションはこの
Voiceの機能を支援することにあるとい
うことを日々確認しつつ活動をしてい
きたい。

市民活動センター神戸 理事
市民社会研究所 所長 今田 忠

特集 1

委託事業の「正しい使い方」？

特集 2

広がり始めたコミュニティ・ビジネス

NPOだより

(全国のうごき) NPO法改正のうごき
(兵庫のうごき) ひょうご市民活動協議会発足！
(KECのうごき) KECの2002年度方針

8

ご挨拶
&
お知らせ

- ご入会の状況
- ご寄付ご協力
ほか





委託事業の「正しい使い方」?

What's ITAKU?

昨今、巷では「委託事業」が大流行り。政府・自治体の財政逼迫もあって全国的にこの二、三年、「NPOへの事業委託」のオンラインペーパードだ。でもそもそも委託事業ってなんだろう? 行政からの補助事業や財団などのからの助成事業とはどう違うのか? 普通の企業が行っている公共事業とは? そもそもNPOやNGOが行政事業を受託していいの? 悪いの? 私たちKECもこれまでいくつかの委託事業をこなしてきたが、今年は過去2年間取り組んできた大きな事業に応募せず、一部には論議も呼んだようだ。その経験も含めて、NPO/NGOとしての「委託事業への対処法」を考えてみた。

◆「委託事業」とは

そもそも「委託事業」とはどのような性格のものか。要点を整理してみよう。

託費△△を支払う」とNPOと行政は事前に取り決める(委託契約)。行政は業務を発注する側、NPOは受注する側、つまりある意味でNPOは「業者」的な立場となるわけだ。

一、収入は業務の「対価」

補助・助成事業との最大の違いは、委託事業においてNPO(受託者)が受け取る金額は業務の対価であるということだ。「NPOは○○といふ内容の業務を行う」「それに対して行政は委

託事業である。だから成果物はすべて行政のものとなるし、事業の実施主体(主催者や発行者)の表記も「○○市」や「××県」となり、NPOはせいぜい「企画・運営」や「企画編集」などつまり、100%の意味で「自分たちの事業」ではなくなるのだ。

どんな業務をどのように行うかについても、従つて、受託者はNPOよりも、委託者=行政の方が一般的に言って発言権が強い。これも行政が「援助者」ではなく業務の「発注者」であるという点からするとある意味当然でもある。あくまで主体がNPOではなく行政にあるということの表れである。

◆委託事業の実際は?

さて、気になる委託事業の実際だが、特に会計面で補助事業等と大きく異なる。委託では一税者としての視点を持つ必要がある。

(1)必要な経費は100%認められる(はずである。但し事前の契約内容次第)

(2)人件費も必要なら認められる(はずである)

(3)委託費の使い道についてはさほど厳密な報告は求められない(はずである)

(4)家賃や光熱費、管理人件費といつた目に見えづらい間接経費や、技術料・企画料のようないいことに関わってくる。

市民からの監督を受けることになる。現在の公共事業が社会から厳しい視線を浴びているよう、NPOへの委託事業もそう。対価も認められる(はずである)。

現在のNPO/NGOに厳しい視線は多分にブームの要素が強く、風向きが変われば社会は一転すればいい。

託事業である。だから成果物はすべて行政のものとなるし、事業の実施主体(主催者や発行者)の表記も「○○市」や「××県」となり、NPOはせいぜい「企画・運営」や「企画編集」などつまり、100%の意味で「自分たちの事業」ではなくなるのだ。

現在のNPO/NGOに厳しい視線は多分にブームの要素が強く、風向きが変われば社会は一転すればいい。

現在のNPO/NGOに厳しい視線は多分にブームの要素が強く、風向きが変われば社会は一転すればいい。

(3)は、本来は受託者の義務は仕様書に基づいた成果を出すことであり、それをこれこれの費用で請け負うというのが契約内容なのだから、受託者は経費明細を一々報告する必要はないということ。予算の範囲内で経営努力をすれば経費を浮かせることができるし、逆に下手をすれば赤字になる。

これらはNPOが人を雇用し本格的な事業化を進めるには不可欠の条件といつてよい。しかしそれ現実には――

◆NPOにとっての意味

人件費日額十数万円という金額
が支払われている現実があり、
その格差はNPOを安上がりにな
く請け扱いしていると言われて
も仕方ないだろう。

に陥ってしまう危険性は常にあります。さらに、委託事業には市民や地域からの直接のニーズに応えるのではなく、行政がやつてほしいと思うものに応えるという面がある。

事業目的や予算、期間といった大枠がほぼ決まってから、NPOに「協働しましょう」といつてくるものが多く、結果として行政事業の安い下請けとなりがちである。

動機も、それ自体が悪いことではない。NPOへの委託によって行政のスリム化が進み、かつNPOの事業化・組織化も（独立性が犯されない形で）進むなら、委託は悪いことではない。

いうこと。予算の範囲内で経営努力をすれば経費を浮かせることができるし、逆に下手をすれば赤字になる。

これらはNPOが人を雇用し本格的な事業化を進めるには不可欠の条件といつてよい。しかし現実には――

(4) 技術料・企画料(IIソフトの価値)、あるいは一般管理費といった費目はなかなか認められない。

一、組織の独立性と市民性は保たれでいるか

いい話だが、その際、次の点は注意しておく必要がある。

(2) → ごく安い人件費しか認められないことが多い、

本格的な事業化を進めるには不可欠の条件といつてよい。しかし現実には――

これがNPOが人を雇用し
ば赤字になる。

いうこと。予算の範囲内で経営努力をすれば経費を浮かせるこ

最後に

KECは、NPO／NGOが

NPO側としても、自らのミッションを常に基本とし、委託

（ない）委託条件の整備を、企業や各種団体、そして行政自身の公金の使い方の点検と同時に進めるのではないか。

例えば昨年までの「生活復興のためのNPO活動支援事業」(兵庫県委託)では、(2)人件費は日

続性も不明、しかも寄付や会費に比べてはるかに大口の収入であるところ、団体の収入を過度に

ライアントがつき、委託でも自主品牌と変わらない強い事業にできる。

い」から本当の意味で「自治」

組む必要がある。また独立性を確保するためには上に書いたような委託以外の事業開発・財源

二、事業の企画立案への参加は

NPOからの働きかけや協働は不可欠である。

開発が重要なだけではなく、市民の共感を得られる活動も、いかにすればよいかが最大のポイントだろう。

費は一切ダメ、といつた具合であつた。一方で企業に対しては

委託事業に依存することには危険が伴う。また、なんだかんだ言つても仕事を「出す側」「もうらう側」という行政・業者関係

担保されているか

「NPOを活用して事業費を
安くあげたい」という行政側の
不可欠である。

かどうかが最大のポイントだろ
う。
(実吉 感)

広がり始めた コミュニケーション・ビジネス

特集2



社会や地域に役立つないと
をしたいと考える
人が増えています。

物質的な豊かさを求め利益
を追求する働き方より、
困っている人の役に立つことや、地域の活性化につな
がるしごと、あるいは環境
に負荷のかからないものづ
くりなど、生きがいを感じ
られるし」とを選びたい。

そう考えて身のまわりを見
渡すと、「コミュニケーション・ビ
ジネス（C.B.）」の素材はい
ろいろ見えてきます。

支援

C.B.を支援する
N.P.O.

K.E.Cも一員である「し
みん事業サポートネットワー
ーク（S.B.S.N = Social

Business Support Network」
は、構成団体がそれぞれコ
ミュニティ・ビジネスを実
践する傍ら、そうしたシ
トをビジネスとして成立さ
せていくこうとする人や団体
を支援することを目的とす
る団体です。そのS.B.S.Nが、

兵庫県が一昨年度から始め
た「生きがいし」とサポート
センター」の今年度の運
営を受託することになりま
した。

* 初の二ヵ年が被災地全
域で「力のセンター」だったの
に対し、今年度は神戸・明石・
三木の各市と淡路島を担当する

長田区のセンター（＝S
B.S.N事務局、次ページ枠
内参照）と中央区のプラン
チ（K.E.Cが担当）の二ヵ
所で、社会に役立ち生きが
いを感じられるし」とを、
さらに「一人前の給料が出
せる」ようにしていくため
のサポートを開いています。
これは簡単なことではありませんが、ひとりの力では

起業
事業計画を立てて
みる

プランチが企画・運営を
担当した「コミュニケーション・
ビジネスゼミナール」は、
なカリキュラムに取り組ん
でもらい、起業を後押しし
ようというもので、八団体
の人方が参加しました。

生きがいしとサポートセンター神戸（わ～す）2002年度春期
**コミュニケーション・ビジネスゼミナール
カリキュラム**

日付	内 容
第1講 (オーラ フォーラム)	【講義】「コミュニケーション・ビジネス成功のカギは あなた自身です」 山科 裕さん（株ビジネスデザイン代表取締役）
	ガイダンス 自己紹介・第1講の感想
4/13 (土)	
第2講	【事例1】現場見学＆経験に学ぶ 日比野純一さん（ツール・ド・コミュニケーション代表）
4/20 (土)	【講義】ビジネスプラン作成基礎 <マーケティング編> 奥村政治さん（中小企業診断士）
第3講	
4/27 (土)	【事例2】現場見学＆経験に学ぶ 岡本順子さん（(特)西宮地域たすけあいネットワーク理事長）
第4講	【講義】ビジネスプラン作成基礎 <財務編> 宿題の添削 奥村政治さん（中小企業診断士）
第5講	
5/11 (土)	【受講生ディスカッション】 「私の考えるコミュニケーション・ビジネス」
第6講	
第7講	【事例3】現場見学＆経験に学ぶ 西村 貢さん（兵庫県移送サービスネットワーク理事長）
第8講	【宿題の講評】 森田博一さん（株シティコード研究所代表） 今田 忠さん（市民社会研究所所長） 実吉 威（KEC専務理事）他
第9講	【講義】プレゼンテーション心得 森田博一さん（株シティコード研究所代表）

なかでも実践的だったの

は二度の宿題で、一度目は事業の内容から強み・弱みの認識、市場規模や販売方法まで、事業開始に必要な

ひとつおりのことを書いてもらいました。項目によつては「まだそこまで考えてない」という方も多かったのですが、夢を語っているだけでは起業はできないと

思いました。項目によつては「まだそこまで考えてない」という方も多かったのですが、夢を語っているだけでは起業はできないと

経験だつたことでしょう。

二つめの宿題は、事業内容と収支計画を詳しく書いてもらうもの。一年目でいきなり黒字が出る計画あり、

せっかく特色ある人材を抱えているのに生かしきれていない計画あり、はたまたやりたい事業は全部並べた計画あり、とさまざまでした。

ゴールデンウイークをつぶして計画づくりと格闘した

受講生たちは一様に、考え

の整理されていない部分が浮き彫りになつたと、清々

しい表情でした。

また、第八講では作成し

たプランについて講師陣を前にプレゼンテー

ションをしてもらいま

質疑応答とアドバイスを行いました。厳しい

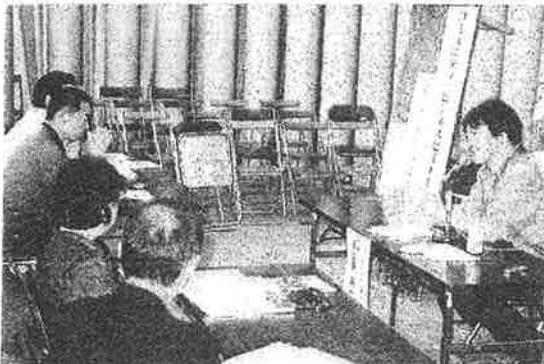
質問も出ましたが、「面

白いプラン、一緒にやりたいなあ」などのコメントも飛び出し、計

画作成もさることながら、

共感を得られる事業であることの重要性もあ

第2講：ツール・ド・コミュニケーション代表、日比野さんに4年目の戦略を聞く（ペーパードームたかとりにて）



想着　もう始めている人たちのアイデア

らためて認識されました。修了後はそれぞれアドバイスを参考にして、本格的な準備作業に邁進しています。

K E C では昨年度自主事業として C B ゼミを行いましたが、そこからすでに起

業を果たしつつある団体がいくつもあります。

「神戸ルネサンス俱楽部」は、

被災者支援のチャリティコ

ンサートなどを開いていた

プロの指揮者が中心となり、

音楽で神戸を元気にすると

いう事業を立ち上げました。

商店街などとタイアップし

て地域の子どもたちや市民

の合唱団、地域のアマチュア演奏家による楽団などが

出演するコンサートを開き、

まちの活性化に貢献してい

ます。音楽という、人と人

とのつなぐ技術を持った人ならではのビジネスといえます。もちろんまだボランティアに支えられている部分もあります。

いずれも、お金のまわる仕組みづくりは簡単ではありません。安い料金で本物

の音楽に触れる機会を提供

したい。地域でよく知つて

います。もちろんまだボラ

ンティアに支えられている

部分もあることでしょう。

こうした独自の工夫や強

みを生かすことができる、

ビジネスが動き出します。

さあ、あなたも挑戦してみませんか？

（わ～すプランチ責任者 八十庸子）

生きがいしごとサポートセンター神戸 “わ～す”では――

コミュニティ・ビジネスに関心を持つ人やグループを対象に、
①情報提供・体験、②就業、③創業、④経営の支援を行います。

ご興味のある方はまず下記<センター>にお越しください。

開室時間 火～金 11:00～20:00、
土 10:00～19:00
(祝日および13:00～14:00を除く)

住所 〒653-0038
神戸市長田区若松町2-13-1
PIAZZAビル2F

T E L (代表) 078-612-7319
(相談受付) 078-612-7330

F A X 078-612-7313

e-mail worth@social-b.net

U R L <http://www.social-b.net/worth>

この事業は(財)阪神・淡路大震災復興基金を財源とした委託事業として、特定非営利活動法人しみん事業サポートネットワークが運営しています。

全国のうごき

NPO法改正のうごき

一九八八年十二月から施行された
いるNPO法（特定非営利活動
促進法）ですが、現在、法改正の
準備が進められています。既に与
野党の合意があり、秋の国会での
成立が見込まれています。詳細を
お知りになりたい方は事務局まで
お問い合わせ下さい。

- 従来の「収益事業」という事
業分類を「その他の事業」に
統合する。
- これまで必要だった十六の申
請書類が十一に省略もしくは
統合される。
- 予算準備の規定が削除され、
柔軟な事業実施が可能になる。
- 従来の「収益事業」という事
業分類を「その他の事業」に
統合する。

■ NPO法に定める十二の活
動分野に新しく五分野が追加
される。

- (1) 情報化社会の発展を図る
活動
- (2) 科学技術及び学術の推進
を図る活動
- (3) 経済活動の活性化を図る
活動
- (4) 職業能力の開発及び雇用
機会の創出を図る活動
- (5) 消費者の保護を図る活動

ひょうご市民活動協議会発足！

兵庫のうごき

二〇〇一年一月五日、県内
の市民活動団体のネットワー
ーク、「ひょうご市民活動協
議会（略称HYOGON）」が設立総会を行
い、正会員十九団体と、
その他会員六団体・個人で
スタートした。総会・懇親
会には七八名が参加し、熱
氣に満ちた幕開けとなつた。
前年四月に準備会が発足し
てから十カ月、焦らずじつ
くりと時間をかけて、HY
OGONの果たすべき役割
についての議論と、趣意書
や会則などの器づくりに取
り組んできた。思いを込め
て作りあげた趣意書には、
①活動団体自身の「相互
研鑽の場」
②企業や行政、社会一般
への「発信窓口」
となることによって、
③「市民活動の基盤整備」
を行う

HYOGON
ひょうご市民活動協議会

- 2002度の主な活動計画
 - ・広報コンクール（広報WG）
 - ・大交流合宿（交流促進事業）
 - ・行政との関係づくりの事業
(提言・提案活動)
 - ・情報提供・情報発信(HP、メール
ニュース・メーリングリストなど)

- 2001年度の主な活動実績
 - ・各種WGの起ち上げ
 - ・まちづくりワークショップ開催
 - ・ホームページの開設・運用
↑ <http://npo-tcc.ddo.jp>
(ぜひ覗いてみてください！)
 - ・メーリングリストでの情報共有
 - ・パンフレット作成
(見てみたい方はお問い合わせ下さい。)

※ KECは事務局を担当しています。

個々の活動の質を高めてい
こうという趣旨である。
また、全体の組織づくりと
並行して、事業推進主体で
あるワーキング・グループ（以
下WG）がいくつか起ち上
がってきた。WGは、HY
OGONの趣旨に添つて具
体的なアクションを起こそ
うと思つた人を中心にして、こ
の指とまれ方式で結成される。
あとはその構成メンバーで
検討会議を持ち、活動を進
める。各WGの動きは運営
委員会で進捗状況が報告され、
興味を持った人はいつでも
参加できる。WGこそがHY
OGONの活動の本体であり、会員がWGに主体的
に参加すること

に参加することでHYOG
ON全体を動かしていくこ
うのが、WG形式の狙
いだ。

団体の参加意識は高く、六
月二七日に行われた今年度
の通常総会時点では正会員
三七団体、その他の会員十
二団体・個人と、すでに設
立時の約二倍の規模になっ
ている。寄せられる大き「夢」
と「期待」をどう形にし、
それを実現できるだけの実
績づくりと、会員拡大のた
めのHYOGONの魅力づ
くりが今年度の課題だ。
ネットワークの力が試され
る一年である。

〔2002年度、KECはかわります!〕

KECの2002年度方針

去る6月15日に理事会で承認され、同日総会で報告されたKECの2002年度方針についてお知らせします。

まず、2001年度は振り返ってみると、行政からの委託事業に予想以上の時間を費やし、KECの持つ情報を十分に発信する事ができない1年でした。そこで、2002年度はNPOと市民/企業、NPOとNPOの関係を大切にし、神戸・阪神地域におけるNPO/NGOが社会の中で「見える」ようにしていくことに力を注ぎます。KECが支援したいと考えている活動と今年の重点領域は下記の通りです。新事務所への移転も一つの契機にNPOおよび市民にとっての情報拠点になる事を目指します。

理事・スタッフ一同

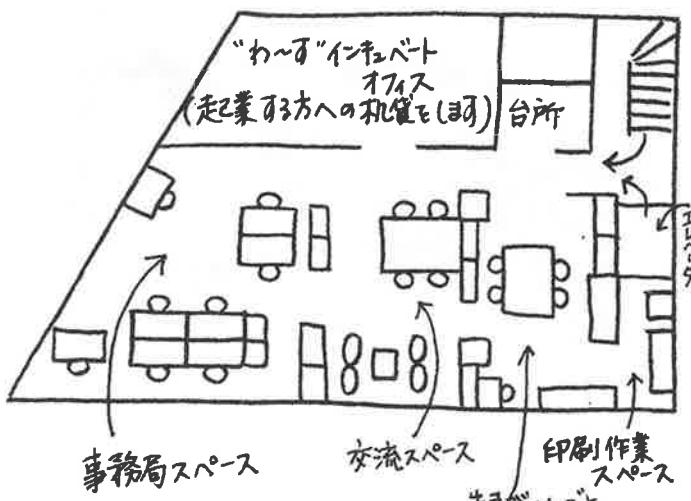
KECが支援したい活動

- 1 社会的な問題提起を重視する活動
- 2 市民参加を重視する組織
- 3 コミュニティ・ビジネス（事業力の高い）活動
- 4 新しいコミュニティづくりの活動

KECの2002年度の重点領域

- A 相談事業（事例の蓄積とデータベース化）→ NPOの支援
- B 情報・広報事業（およびそのための情報収集）→ NPOの“Visualize”
- C 提言・オピニオンの発信 → NPOを支える“仕組み”的提言

【KEC新事務所見取り図】



【スタッフ紹介】



●実吉 威
KECの全てを取り仕切って
います。髪の毛が〇年ぶり
に短くなりました。



●石川 知子
早くも3年目。わへす
事務局、NPO支援アドバイザー
事業を担当。



●大和田信行
6月からスタッフとして勤務。こち
ら本当のKEC歴は4年。HYOGON事務局、
NPO-PR事業を担当。

●熊沢 幸子
早くも3年目。HYOGON事務局、
学び支援事業を担当。似顔絵
一筋よく似ています。



●橋本恵美子
4月からスタッフとなり
NPO支援アドバイザリー事業
学び支援事業を担当。

●山根 謙
6月からスタッフとなり、NPO
支援アドバイザリー事業、情報発信
事業を担当。IT係長も兼任。

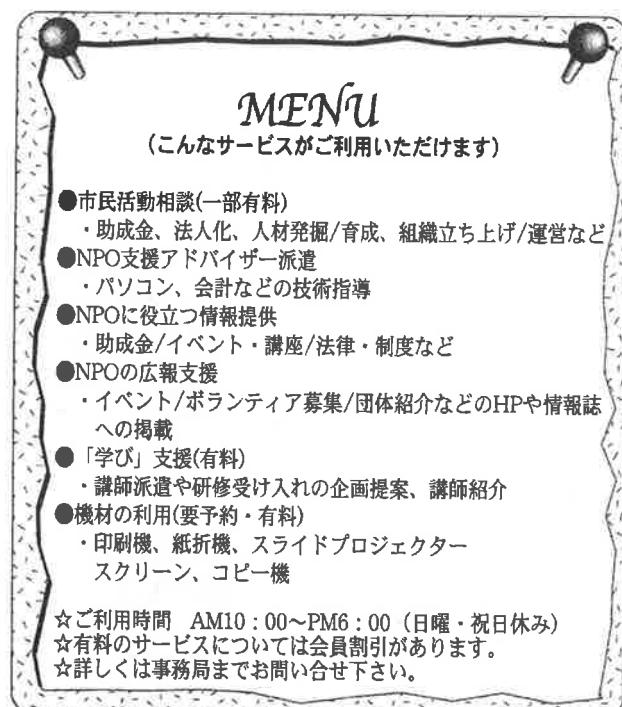
●山崎ゆり
記録室から数えて6年目。
週1回のペースで会計の
出納から入力まで担当。



●八十 真子
記録室から数えて5年半。主な
担当は出版事業、わへす事務局
市民社会推進機関など。KEC
ご当地専門家などをどうぞ。



●山崎まさか
今年1月から週2回のペースで
HPの更新作業などを担当。
KECインテリアコーディネータ
も兼任。



会員のみなさま

◎2口 ★新規 ▼学生
2002年4月～6月末
(敬称を略させて頂きます。)

★ 三木市 城間 貴之	★ 小林 美紀 長嶋 白水 野崎 河野 中田 小澤	★ 長嶋 昌甲 河野 正和 小林 るみ子
----------------	------------------------------------	----------------------------

◆引越祝い

奥井 秀樹
(財)木口ひょうご地域振興財団
鬼頭 哲也
黒田 裕子
神戸復興塾
寿ボランティアグループ
(特)COM総合福祉研究所
竹川 清一
筒井 耕二
中田 智恵海
長谷川 忠一
(特)被災地障害者センター
兵庫県学童保育連絡協議会
松本 誠

◆ご寄付 (2002年6月末まで)

池田 啓一
岡田 光生
佐藤 恵
長沢 恵美子

◆ホームページ制作協力

諏訪 晃一
田浦 彩子
林 久子

◆みみずく刊行へのご協力

河野 正和
サン ピンホー
諏訪 晃一
田浦 彩子
田浦 陽子
福原 誠
山口 真司

※その他、この印刷には間に合いませんでしたが、お手伝いいただきました。皆様ありがとうございました。

◆編集デザイン

菅 陽子

◆編集スタッフ

石川知子、熊沢幸子、実吉威
八十庸子、山根謙



個別 賛助 人

★ 神戸市 神戸市 ★ 神戸アイライト協会 (特)COM総合福祉研究所 兵庫県学童障害(L.D.)児・者親の会たつの子 (特)ひょうごセルフヘルプ支援センター	★ 埼玉県 佐藤 恵 京都府 ◎後藤 才正・路子 大阪府 池田 正子	★ 香川県 高松市市民部市民生活課 姫路市 ★ 清原 桂子 香川県 西池 陽一 大阪府 川畑 恵子
--	---	--

ご入会・ご継続ありがとうございました！

みなさまからのご期待に応えるべく、一同努力してまいります。
今後ともよろしくお願ひいたします。

★ 淡路島ファミリーサポートセンター「あるある」
★ (特)幸せな家庭環境をつくる会 兵庫支部
★ 芦屋市
★ 石ころの集い
★ 父親サポート関西

市民団体 利用

西宮市
★ 父親サポート関西



新事務所へのお祝いありがとうございました。

5/17,18両日の新事務所お披露目パーティーには延べ108人の方が来て下さり大盛況でした。皆様ありがとうございました。



当センター森田副理事長が秘伝のたこ焼きを披露！

「みみずく」 発行予定

次号より下記の内容で発行していきます。
概要：8頁で隔月発行(2002年9、11月、2003年1、3、5月)
内容：年間テーマ「市民が支える市民活動」に沿った特集
連載「神戸・阪神地域のNPO」「ひょうご市民活動協議会の動き」など
付録「みみずく掲示板」(愛称募集中)
・イベント情報・ボランティア募集情報・助成金情報

◆炎暑お見舞い申し上げます。ついに元町商店街デビュー！? 商店街の「夜市」にKECもたこ焼きとチャイで初参加。想像以上の人の波にびっくりしながら、売り子に励みました。焼き手も汗だく。お疲れ様。(石・く)

◆みみずく復活第二号！は七月中に出すはずだったなんですが……。はあ、それにしても暑い……(J)

◆KECは、八月十三日から十八日まで夏休みをいただきます。おお。上場企業並み。ビニールカーテン付きの入り口に驚いた方もおりでしょう。それもこれも冷房効率を考え、です。早く涼しくなあれ。

◆今月号はIllustratorでの初めての編集です。菅さんの協力で素敵なデザインに仕上がりました。スタッフもがんばって勉強します。(根)(花)

後

記